

美山だより 2010・あき

皆様へ

アースガーデンでは今、色づいた木の葉が晩秋の光の中で舞っています。晴天続きで、おひさま発電所の累積発電量は7000kWhをすでに超えました。

美山だより夏号でお知らせした家族用トイレに直結した小さなメタン発酵槽からは、バイオガスが少量ながら順調に発生するようになり、3～4日に一度、3リットルのやかんでお湯を沸かしています。(写真1)

すでにお知らせしたように我が家のメタン発酵システムはとて小さいので、ガスの活用は目的ではありませんが、とりあえず発生するものは少量でも有効利用したいです。ガスに少量含まれる硫化水素も、さびた鉄くずを入れた装置を通過させて除去し、クリーンなガスになっています。家畜の排泄物が大量に発生する牧場や養鶏／養豚農家では、もっと大きなバイオガス・システムが可能です。きちんと設計し施工すれば実用レベルでガスの自給ができます。



写真1

以上のバイオガスの例以外にも、動物を農的暮らしに組み込み活用することに、私は関心があります。特に興味があるのは、動物を用いた草地管理／活用の方法です。美山町では、この秋までずっと、混合ガソリンでエンジンを動かす刈払機の音が近隣のあちこちで聞こえていました。我が家でも手刈りでは間に合わないので、この種の刈払機を今年も時々使いました。

そんな折に、この9月にオーストラリアで興味深い事例をいくつか見学しました。例えば、クィーンズランド州のエコビレッジ、クリスタル・ウォーターズでの牛を用いた草地管理／活用のシステムです。マックス・リンデガー氏の農場で、5エーカーほどの草地にピーカン・ナッツやライムの木々が植えられています。この草地はロープで20～30の小区画に区切られ、少数の牛がローテーションで放牧されています。そこでは人間が草刈りをしなくても、牛が草を食べて牛肉となり、肥料になる牛糞も得られます。マックスは養蜂もされていて、ピーカン・ナッツの花期はハチがそこで蜜を集め蜂蜜となり、ナッツも収穫されます。またこれらの木々は亜熱帯の熱い日ざしの中、部分的に牛に木陰を提供してくれます。放っておけば草ぼうぼうになりかねない土地が、牛の放牧場、ナッツやライムの果樹園、養蜂を組み合わせることで、うまく活用されていました。(写真2)



写真2

その他、オーストラリアの別の地域でも、動物の活用例をいくつか見学しました。ビクトリア州では、果樹園にヤギやガチョウなどを放して、草刈り機の役割をさせると同時にタマゴやミルクも得ている事例を見学しました。またニューサウスウェールズ州で泊めてもらった知人宅の菜園では、複数の長方形の植床に鶏をローテーションで放していき、作物残さや雑草、台所からの生ゴミを食べてもらおうと同時に、鶏たちに自動的に鶏糞を施肥し土と馴染ませてもらい、卵も得ていました。

オーストラリアから帰国したら、またもや美山町ではあの刈払機の音があちこちで…11月に入っても聞こえていました。動物を使った草地管理／活用システムでこの地域に応用できる方法がないかな、って考えています。

2010年11月14日

アースガーデン 植月千砂